



# 対がん協会報

1部70円(税抜き)

第626号

2015年(平成27年)  
8月1日(毎月1日発行)

公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です  
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町センタービル(マリオン)13F  
☎(03) 5218-4771 <http://www.jcancer.jp/>

主な  
内容

- 2面 厚労省検討会 中間報告書案  
まとまる
- 4、5面 特集 ピンクリボン  
フェスティバル2015
- 6面 リリー・オンコロジー・オン・  
キャンパス 受賞作決定

## がん征圧全国大会 9月4日に前橋市で初開催 「集い 語らい 思いは未来に」

### 主なプログラム

#### 【全国大会前日】

9月3日(木) ホテルラシーネ新前橋「ロイヤルオーキッド」他

#### ■シンポジウム 15:00~17:40

- ・テーマ「より精度の高い子宮頸がん検診をめざして~HPV検査の併用」
- ・シンポジスト(予定)

岩成治氏(島根県立中央病院医療技術局長)

正林督章氏(厚生労働省がん対策・健康増進課長)

木村幸代氏(群馬県高崎市保健所 保健師)

コーディネーター 祖父江友孝氏(大阪大学大学院医学系研究科教授)

#### 【がん征圧全国大会】

9月4日(金) 10:00~12:20 前橋市民文化会館大ホール

■表彰 朝日がん大賞、日本対がん協会賞(個人・団体)、永年勤続表彰、  
がん征圧スローガン入選者、がん征圧ポスター最優秀賞

■記念講演 アグネス・チャンさん(日本対がん協会ほほえみ大使)

#### ■群馬県アピール

■主催 : 公益財団法人日本対がん協会、公益財団法人群馬県健康づくり財団

■特別後援 : 朝日新聞社

#### ■後援 :

厚生労働省、日本医師会、群馬県、群馬県議会、群馬県教育委員会、  
群馬県市長会、群馬県町村会、前橋市、群馬県医師会、群馬県歯科医師会、  
群馬県薬剤師会、群馬看護協会、前橋市医師会、群馬大学医学部附属病  
院、上毛新聞社、群馬テレビ、FM GUNMA

日本対がん協会と群馬県健康づくり財団(日本対がん協会群馬県支部)は、がん征圧月間の9月4日に前橋市で「がん征圧全国大会」を開催する。前橋市での開催は初めて。

今年の大会テーマは「集い 語らい 思いは未来に」。未来志向の大会にふさわしく、大会前日のシンポジウムでは、日本で導入が遅れている子宮頸がん検診へのHPV検査の導入について議論し、広くアピールする。

コーディネーターは大阪大学大学院教授で厚生労働省の「がん検診のあり方に関する検討会」の検討委員などを歴任する祖父江友孝氏。厚生労働省がん対策・健康増進課の正林督章氏や、島根県立中央病院医療技術局長の岩成治氏など多彩なシンポジストが出席して、様々な角度からより精度の高い子宮頸がん検診のあり方について話し合う。

全国大会当日は、日本対がん協会ほほえみ大使を務めるアグネス・チャンさんが記念講演を行うほか、日本対がん協会賞や朝日がん大賞に選ばれた個人や団体の表彰、日本対がん協会グループ支部・提携団体の永年勤続者や、がん征圧スローガンの入選者などを表彰する。

**がん相談ホットライン** 祝日を除く毎日  
03-3562-7830

日本対がん協会は、がんに関する不安、日々の生活での悩みなどの相談(無料、電話代は別)に、看護師や社会福祉士が電話で応じる「がん相談ホットライン」(☎03-3562-7830)を開設しています。祝日を除いて毎日午前10時から午後6時まで受け付けています。相談時間は1人20分まで。予約は不要です。

**医師による面接・電話相談(要予約)**  
予約専用 03-3562-8015

日本対がん協会は、専門医による面接相談および電話相談(ともに無料)を受け付けています。いずれも予約制で、予約・問い合わせは月曜から金曜の午前10時から午後5時までに☎03-3562-8015へ。相談の時間は電話が1人20分、面接は1人30分(診療ではありません)。詳しくはホームページ(<http://www.jcancer.jp/>)をご覧ください。

## 厚生労働省検討会中間報告書案

# 胃がん検診、エックス線検査も 内視鏡検査も50歳以上、2年に1回に

厚生労働省の「がん検診のあり方に関する検討会」が7月30日に東京都港区の航空会館で開かれ、乳がん検診及び胃がん検診の検診項目等についての中間報告書案をまとめた。検討会の最終報告は8月の予定で、年内に指針を改定し、早ければ来春から導入する方針だ。

### 胃がん検診

胃がん検診項目について、検討会は従来の胃部エックス線検査に加え、胃内視鏡検査を対策型検診として実施することが適当であるとして、胃がんの検診方法に胃部エックス線検査もしく

は胃内視鏡検査とすると提言した。両方の検査ともに、対象年齢を50歳以上、検診間隔を2年に1回とすることで、検討会全員が了承した。

胃部エックス線検査は従来、40歳以上を対象に年1回の実施を推奨しているが、この日の検討会で、①対象年齢については1990年に比べ、40代の胃がん罹患率が直近のデータでは男女ともに半減し、死亡率も6分の1に減少した②胃がんリスク要因のヘリコバクター・ピロリ菌の感染率も1992年には40代は約80%だったのが、近年は50%以下に低下した、などを理由に、胃部エックス線検査も胃内視鏡検

査とともに、対象年齢を「50歳以上」とするとした。

検診間隔も中間報告書案の当初案では胃部エックス線検査は年1回、胃内視鏡検査は2年に1回としていたが、実務管理上の問題からも両者ともに2年に1回に合わせることで了承された。

一方、ペプシノゲン検査とピロリ抗体検査を併用した検査については、「現時点では死亡率減少を示すエビデンスが十分でないため、胃部エックス線検査や胃内視鏡検査と組み合わせた検診方法の構築や死亡率減少効果などを引き続き、検証することが必要」との提言にとどめた。

## マンモグラフィ単独検診を推奨

### 乳がん検診

乳がん検診については、報告書案では、「マンモグラフィによる検診を原則とする」と提言。40歳以上に2年に1回の検診間隔で、マンモグラフィの単独検診を推奨することで了承された。

ただ、視触診については中間報告書案では「視触診については必須ではないが、実施に当たってはマンモグラフィと併用して実施することとする」との提言を示したが、その表現について再度検討されることになった。超音波検査については、対策型検診として導入される可能性があるとしながらも、

死亡率減少効果や検診の実施体制について引き続き検証する必要があるとしている。

検討会の最終報告は8月の予定で、検討結果をもとに、厚生労働省では細部を詰め、年内には検診の指針改定を進め、来年度からの検診への導入を目指すと思われる。

## 厚労省委託事業「がんと診断された時からの相談支援事業」 がん相談支援のシンポジウムを開催 参加者募集中

日本対がん協会は、厚生労働省の委託事業の一環として、がん相談支援体制のあり方を考えるシンポジウム「地域統括相談支援センターで変わるがん相談」を開催する。8月26日午後1時から、東京・築地の国立がん研究センターで開く。

がん患者・家族の悩みは、治療のことはもちろん、普段の生活のこと、仕事のこと、教育のことなど多岐にわたっている。そのため、国は

様々な相談をワンストップで提供する「地域統括相談支援センター」の設置を進めている。現在、全国の10府県が導入しているが、まだ数も少なく、地域によってその活動内容や範囲も異なっているのが現状だ。

シンポジウムでは、同センターや類似機関のセンター長や相談員、厚労省や自治体の担当者や、利用する側のがん経験者などが一堂に会し、これまでの経験からよりよいがん相談支援体制

のあり方を探る。

入場無料。参加希望者は氏名、住所、職業、メールアドレス、連絡先を記入してファクス(03-5840-6130)かメール(jcancer@compass-tokyo.jp)でお申し込み下さい。8月19日締め切り(先着順)。詳しくはホームページをご覧ください。  
<http://www.jcancer.jp/can-navi/>  
お問い合わせ先：日本対がん協会  
がん相談支援室(03-5218-6051)

相談件数  
10,578件

# がん相談ホットライン2014年度年報

日本対がん協会相談支援室はこのほど、「がん相談ホットライン2014年度年報」をまとめた。電話相談の「がん相談ホットライン」は看護師と社会福祉士によるがん患者サポート事業で、誰かに気持ちを聞いて欲しい、不安で仕方がないなど、医師だけではカバーできないような、患者や家族の幅広い悩みをサポートするために開設された。

2006年4月の開設以来、年々相談件数が増え、昨年度は初めて年間1万件を超えた。

## 増える「不安などの心の問題」

2014年度の相談件数は10,578件で、前年度比109.1%。月平均件数は882件だった。月別では例年通りピンクリボン月間の10月が1,044件で一番多かった。

相談の内容は「治療」に関する相談

が2,540件(全体の24.0%)と最も多く、次いで「不安などの心の問題」が2,335件(22.1%)、「症状・副作用・後遺症」についての相談が1,962件(18.5%)と続く。「不安などの心の問題」の相談件数は過去最も多かった。

相談件数が増えた理由としては、匿名性や利便性、民間の相談機関であることの敷居の低さに加えて、相談者の気持ちに寄り添いじっくり話を聴くホットラインの姿勢が受け入れられていると考えられる。

## 認知経路はインターネットが1位

初回相談者がホットラインをどこで知ったかは、1位がインターネットで2,616件(35.4%)、次いでリーフレット1,774件(24.0%)、新聞795件(10.8%)と続く。インターネットの増加は、

近年のパソコン・スマートフォンの普及によるものと考えられる。また、病院や行政の窓口からの紹介や、友人・知人、家族・親戚といった、いわゆる口コミによって知った人も増えており、これも日々の相談業務の内容

が評価されていると言えよう。

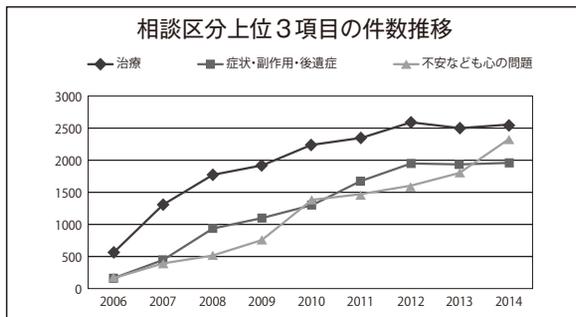
## 今年度相談員が気になった相談

気になった相談の一つは長期にわたるがんと共存に伴う悩みだ。手術ができない人や、再発、転移が起きてしまった人も、治療を続けながら長期間普通の生活が営めるようになってきた。

それに伴い、医療費の負担、治療を続けるつらさや将来への不安、副作用や後遺症などの問題と長く付き合うことになる。さらに生きがいや仕事、家庭での役割を見つめ直したり、それらの変化を受け入れたりしていかなければならない。終わりの見えないがんと付き合いに、「いつまでこれが続くのか」「逃げ出したい」と話す人もいる。

また、治療をしながらでも普通の生活をしていると、周囲はもう治ったかのように接するので、気持ちのずれを感じたり、何気ない言葉に傷ついたりすることもある。心の中で健康な人との違いを感じて苦しんでいる場合もある。

ホットラインでは、このような相談者の素直な感情に寄り添い、問題を少しでも軽減できるように共に考えている。



## 書評

# 「102歳の平穏死 自宅で看取るということ」

公益財団法人日本対がん協会 会長 垣添 忠生



井上貴美子さんという方から、ある日、私の事務所に書物と手紙が送られてきた。

「102歳の平穏死 自宅で看

取るということ」。水曜社発行で、本体1,400円。

私が以前、「妻を看取る日」を發刊した折、御手紙を下された方で、妻の大学の後輩に当り、妻と同じような学歴をたどられた方であった。

この本には、100歳を超えても元気

だったお父さんが、腰椎の圧迫骨折を機に入院し、誤嚥性肺炎を起こされ、手にはミトン、腰は帯でベッドにくくりつけられる生活に状況が激変したこと。毎日、お父さんから「これはずしてくれ」と訴え続けられた家族の苦悩。これらの日々が淡々と記されている。

中心静脈栄養を止め、転院し、やがて点滴も止めることになるが、家族にとっては、その一つひとつが大きな決断であることが記されている。

看護部長からの強い勧めに従って、最終的には自宅にもどり、お父さんは「幸せだ」の一言の八日後に静かに息を

引きとられた。その間、介護保険の申請や、自宅への電動ベッド搬入の顛末なども記されている。

美しい花々で飾られた葬儀のこと、亡くなられた後の虚脱感と静かな安堵など、約四ヶ月にわたるお父さんの病状と看護、介護の日々が正確に記されている。

私がこの本を、日本対がん協会報に紹介する理由は以下の通り。今後急増するであろう在宅での看取りに関する、医療従事者でない一般の方の苦悩や決断に関する記述が優れており、われわれにも参考となる、と考えたからである。

特集 ピンクリボンフェスティバル2015

# ピンクに染まる秋に向けて始動中

乳がんの早期発見の大切さや、乳がんサバイバーを支援できる社会の構築を目指して、今年度もピンクリボンフェスティバル(日本対がん協会、朝日新聞社ほか主催)が各地で開催される。ピンクリボン月間の10月を前に、すでに各地で進行中の様々な啓発プロジェクトの現場を訪ねた。

## 「ピンクリボンムービーサプライ2015」

### 今年も制作快調 第1弾、第2弾公開

映像の力で乳がん検診の大切さを伝える、「ピンクリボンムービーサプライ」(協賛:富国生命保険相互会社)が、

株宣伝会議の特別協力を得て今年も始動。3組の気鋭のクリエイターチームが制作する。第1弾は6月から、第2弾

も8月1日から公開された。第1弾、第2弾のムービーサプライの制作現場を覗いた。

### 分身が乳がん検診受診をお願い

第1弾「パイ田姉妹のお願い」篇 制作:電通クリエイティブX くらす・もも組

「私たち、あなたのおっばいですの」ぼよよんと現れるマペットのパイ田姉妹が衝撃の告白。毎回、新たな挑戦でクリエイター魂を感じさせてくれるムービーサプライだが、今年の第1弾は、乳房を擬人化したキャラクター「パイ田姉妹」を登場させて、ユーモラスな中にも真面目に乳がん検診の大切さを訴える。

制作したのは今年2月に制作会社の電通クリエイティブXで誕生したばかりの女性だけのチーム「くらす・もも組」だ。プロデューサーの外山良子さ



くらす・もも組のみなさん

んを筆頭に、ディレクター、コピーライター、アートディレクター、デザイナーなどさまざまな分野のクリエイターが集まった。今回のムービーはもも組が世に出す記念すべき初作品だ。

「最初に全員でブレインストーミングをして、シリアスな方向もあったのですが、ディレクターの高野が出した案を見て、こちらの方が伝わると思いました」とコピーと企画を担当した佐々木千穂さん。企画と監督を務めた高野千砂さんも「私は元々笑いがあるものが好きなんです。マペットも好きで、前からマペットを使った企画をやりたいと思っていたんです」と話す。

高野さんのアイデアは、主人公自身の乳房を擬人化した「パイ田姉妹」が突然現れ、自身の持ち主である主人公にぜひ乳がん検診を受けるように頼むというユニークなもの。「これまでおっばいをキャラクター化したものを見たこ



パイ美とパイ子が検診受診をアピールとがなかったなど。今までにないものを作りたかったし、何より自分が自分を大事にしなくてどうすんの、という思いがありました」

パイ田姉妹のキャラクターと造形にもこだわった。気の強い姉、パイ美は髪型もショートカットで、おっとりした妹、パイ子はガーリーな三つ編みといった具合。よく見ると鼻が乳首になっているが、生々しい感じはしない。キャラクターデザインを担当した岡田尚子さんは「みんなに可愛がってもらえるようなキャラクターにしたいなと考えました」と話す。

この映像は現在、仙台市役所の1階ロビーなどさまざまなところで放映され、啓発に役立てられている。

### 美しい映像で女性の強さを描く

第2弾「私の覚悟」篇 制作:読売広告社+パラゴン

第2弾、「私の覚悟」篇のロケ現場にお邪魔した。

ロケは6月4日、5日の二日間にわたって行われた。横浜市鶴見区、都電荒川線沿線、世田谷区、渋谷区と何か所も移動し、日本映画ならではのしっとりとした映像美の作品が出来上がった。

今回は乳がんを体験した女性2人を

クローズアップし、つらい現実の中でも前を向いて歩いていく女性の姿を描いた。主人公二人には映画やテレビで活躍中の女優、片岡礼子さんと中村優子さんが出演してくれることになり、豪華な布陣となった。

制作した読売広告社クリエイティブディレクターの竹中愛さんは「監督の松永高寛さんはカンヌ国際広告映画祭



片岡礼子さん(左)の笑顔と涙が印象的などで沢山の賞を受賞している人なんです。今回は限られた予算の中で最大限良い映像を取ろうと大勢の仕事仲間が協力して、機材や人材を提供してくれました」と話す。近年は日本健康管

## 特集 ピンクリボンフェスティバル2015

理協会の健康診断受診を促すCMや、NHKのいじめを考える啓発映像など、公共性の強い作品も手掛けている。

本作は子どもを守ることを一番に考えている子育て真っ最中の女性と、「そろそろ子どもかな」と思いながら仕事に夢中になっている女性の二人のストーリー。いずれも乳がんで乳房を失ったり、長期間の治療などによって子供を持てなくなるのではと深く悩む姿がリアルに描かれている。特に乳がん治

療と妊孕性の問題はとてもデリケートで深刻な問題だけになかなか踏み込むのが難しいテーマだ。

「今回取材を進めて行く中で、治療と子供を持つことの兼ね合いについて悩んでいる人がとても多いことを知りました。その割にはそういう問題があることがあまり知られていません。そこで、思い切って踏み込むことにしました」と竹中さん。

ムービーの中で二人の女性はそれぞれ

涙を流す。だが終盤の二人の表情は明るく見える。女性が前を向いて歩いていく強さを信じる作品だ。



多くのスタッフが協力したロケ

## 第11回ピンクリボンデザイン大賞 最終審査会を開催 ポスターデザイン861点、コピー14,660点が集まる

乳がん啓発ポスターのデザインとコピーを公募する「ピンクリボンデザイン大賞」(協賛: キリンビバレッジ(株)、ホクト(株)、特別協力: 宣伝会議)の最終審査会が7月24日、東京都港区の宣伝会議本社で開催された。同賞は今年で11回目となる。今年は3年ぶりにコピー部門も復活した。

ポスター部門は2012年度コピー部門最優秀賞作品の「ピンクリボンは、運動ではなく、行動です。」を使用するA部門と、親子をテーマとした検診受診を促すポスターデザインのB部門の部門別に作品を募集した。応募数はポスターA部門が484点、B部門が377点、コピー部門は14,660点と大変な数の作品が寄せられ、同コンテストの知名度の高さを伺わせた。

審査に先立って、患者さんや家族の



公式メッセージのモモ妹が取材

気持ちを傷つけるような作品ではないか患者会がネガティブチェックし、さらに事務局や協賛企業審査を経て絞られた作品を、6人の審査員が厳正に審査した。決戦投票では各審査員が票を投じた理由を応援演説する一幕もあった。

数度にわたる投票の結果、ポスター部門でグランプリ1点、優秀賞AB各2点、入選AB各2点の9作品、コピ

ー部門でグランプリ1点、優秀賞2点、入選2点の5作品、ポスターとコピーで計14作品が選ばれた。

審査委員長の中村禎氏(電通)は、「例年に増して面白い作品が多かった。伝えたいメッセージがはっきりしている作品はやはり強い。コピー部門もかなり良い作品が多かった。選外の作品を含めて公表する機会があると良いのでは」と講評した。

また、会場にはポスターA部門の課題コピーの作者、橋本典子さんもオブザーバーとして参加し、「貴重な瞬間に立ち会えて感激です。私もいいなと思った作品が選ばれて良かった」と感激の面持ちだった。

受賞作の発表は10月1日。ピンクリボンフェスティバル公式サイトや、『月刊ブレーン』誌上などで公表する。

## 『カプチーノはお熱いうちに』試写会&トークイベント開催

ピンクリボンフェスティバルは映画配給会社のザジフィルムズとタイアップして、9月8日にイタリア映画『カプチーノはお熱いうちに』の試写会&トークイベントを開催する。

この作品は、南イタリアの美しい町でカフェを営むヒロインが、乳がんの告知を受けながらも愛とユーモアで乗り越えようとする姿を描く、明るさとやさしさに満ちたヒューマン・ラブストーリーだ。

当日は三船美佳さんをゲストに招きトークショーも行う。

開催日: 2015年9月8日(火)

17:45分開場 18:15分開演

会場: 浜離宮朝日ホール 小ホール  
(都営大江戸線築地市場駅下車)

参加を希望する方はピンクリボンフェスティバル公式ホームページ(<http://www.pinkribbonfestival.jp/>)をご覧ください。



『カプチーノはお熱いうちに』

9月より、シネスイッチ銀座ほか全国順次ロードショー

配給: ザジフィルムズ

©2013 All rights reserved R&C Produzioni Srl-Faros Film

第5回

# 「リリー・オンコロジー・オン・キャンパス ～がんと生きる、わたしの物語。」

## 絵画・写真コンテスト

最優秀賞は木戸瞳さん(絵画部門)と波多野清さん(写真部門)

7月6日、千代田区丸の内のJPタワーカンファレンスホールで「第5回リリー・オンコロジー・オン・キャンパス～がんと生きる、わたしの物語。絵画・写真コンテスト」の授賞式が開かれた。

このコンテストは2004年に米国のイーライリリー社の主催で始まった。がんになっても自分らしく生きられる社会の実現を目指し、がんと告知された時の不安、がんと共に生きていく決意、そしてがんの経験を通して変化した自分の生き方などをエッセーとともに絵画や写真で表現する。米国ではこの10年間で既に4000件を上回る「わたしの物語」が寄せられている。日本でも今年設立40周年を迎える日本イーライリリー株式会社が主催、日本対がん協会などが後援して同コンテストを開催している。

5回目となった今年は、絵画部門50点、写真部門55点の計105点の応募があった。専門家やがん体験者らでつくる審査委員会が審査した結果、最優秀賞各1作品、優秀作品各1作品の合わせて4作品が選ばれた。また、今年から始まったインターネットによる一



左から池田奈央さん、木戸瞳さん、波多野清さん、荒木信子さん、渡邊浩子さん

審査員の岸本葉子さんからは、「がんは不運ではあるが、不幸ではない。(作者は)がんの事は思い出したくもなかったが、絵を描く時に前向きになることができた。自分が成長したことに気づいているのが素晴らしい」との講評があった。

写真部門で最優秀賞となったのは、波多野清さんの「パール富士」。妻をがんで亡くして8年。1人暮らしにやっと慣れてきたころ、今度は自分が胃がんとなり、胃を全摘。術後の食生活も大変だったが、体力の回復とともに長年の趣味である写真撮影への意欲が出てきた。特に富士山の頂きに太陽や月が出入りする現象の「ダイヤモンド富士」「パール富士」の撮影をライフワークの一つとしている。

審査員の平山ジロウ氏は「大自然の中でこのような瞬間が来るのは5分もない。おそらくシャッターチャンスは30秒で、下準備とパール富士への情熱は波多野さんの活力(生きる力)になっているのでしょう」との講評があった。

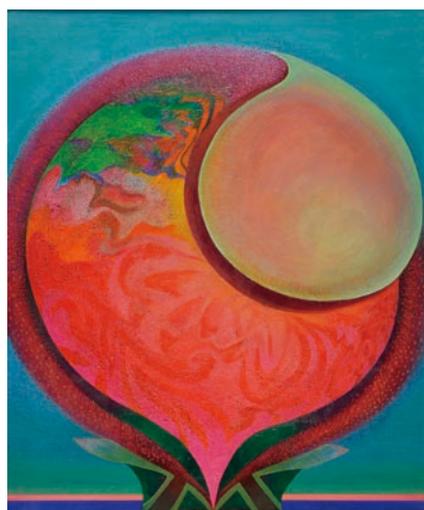
これまでの受賞作品は各地の病院やイベント会場で巡回展覧され、多くのがん患者さんたちに勇気と希望を与えている。授賞式で挨拶に立った日本イーライリリーのパトリック・ジョンソン社長は、「当社は本年日本での設立40周年を迎えた。これからもがんサバイバーの皆さんに役立つよう、さらなる努力を続けます」とその決意を述べた。

(日本対がん協会事務局次長 平田治)

般参加の投票により、絵画部門で最優秀賞となった池田奈央さんの「私たちの庭」、写真部門は渡邊浩子さんの「バトタッチ」の2点が一般賞として選ばれた。

絵画部門で最優秀賞となった「希望の雫」を描いた木戸瞳さんは、2001年に子宮頸がんの告知を受けた時、目の前の風景が一瞬にしてモノトーンになったという。そして20代で子宮を全摘する手術を受けた。がんによるショックは大きかったが得るものもあり、周囲の自然の生命力やエネルギーを今まで以上に感じるようになったと語る。受賞作ではがんになって失った臓器と傷ついた心に、がんになって得たものが希望の雫となって大きく育ってきている様子を表現した。

絵画部門で最優秀賞となった「希望の雫」を描いた木戸瞳さんは、2001年に子宮頸がんの告知を受けた時、目の前の風景が一瞬にしてモノトーンになったという。そして20代で子宮を全摘する手術を受けた。がんによるショックは大きかったが得るものもあり、周囲の自然の生命力やエネルギーを今まで以上に感じるようになったと語る。受賞作ではがんになって失った臓器と傷ついた心に、がんになって得たものが希望の雫となって大きく育ってきている様子を表現した。



絵画部門最優秀賞「希望の雫」



写真部門最優秀賞「パール富士」

## Topics

## 日本顎咬合学会が撤去冠で「がん教育」支援



垣添会長に目録を渡す渡辺隆史前理事長(左)  
国内最大規模の臨床歯科の学会で

ある日本顎咬合学会(千代田区平河町)は、開催した学術大会・総会で、日本対がん協会の垣添忠生会長に寄付の目録を贈った。寄付先は「がん教育基金」で、子どもたちへのがん教育を推進するために役立てられる。

同学会は以前から社会貢献の一環として「日顎基金」を設立し、撤去冠(歯科貴金属屑・歯科スクラップ金属)の

リサイクル事業の収益を慈善団体や研究機関に寄付しており、今回は日本対がん協会がその寄付先となった。

今回の寄付のきっかけは、垣添会長が以前、「口腔ケアの大切さ」について触れた論説を新聞へ寄稿したことだった。寄付金額は1458万円。子どもに対する「がん教育」の充実を図る上で、大変ありがたい寄付だ。

## エイボン・プロダクツ株式会社が「乳がんをなくす ほほえみ基金」へ寄付

化粧品や美容関連製品を販売している、エイボン・プロダクツ株式会社(東京都新宿区)が、日本対がん協会の「乳がんをなくす ほほえみ基金」へ1000万円を寄付した。同社は「女性のための会社(the company for women)」であることを企業理念としており、女性を応援する企業として、

これまでも女性支援のために「ピンクリボン活動」や「女性に対するDV廃絶支援」、「エイボン女性年度賞」の贈賞などの社会貢献活動を行ってきた。

日本でのピンクリボン活動の支援は2002年より始まり、乳がんの早期発見・早期治療の啓発を支援してきた。今回の寄付もその一環だ。



エドワード・ホール社長(右)に感謝状を渡す  
坂野日本対がん協会事務局長

## はい座布団一枚!



## 博多どんたく港まつりでも啓発しています

今年もがんや生活習慣病に関する知識の普及啓発活動の一環として、たくさんの職員が博多どんたく港まつりのパレードに参加した。

博多どんたくはゴールデンウィーク期間中、全国でも一番多くの人で賑わうおまつりで、毎年5月3日に行われるパレードを見物する為に、国内外から90万人が福岡にやってくる。

当事業団は、福岡がん患者団体ネットワーク「がん・バッテン・元気隊」が主催するどんたく隊の中の一団体としてパレードに参加しており、今回で5回

目。どんたく隊には、がん患者会、啓発団体、行政機関、医療機関等16団体が参加し、計200名の大所帯となった。そのうち、当事業団は職員とその家族、総勢59名であった。

どんたく隊は、がん検診の定期受診、がんの早期発見・早期治療、がん患者やその家族の支援をそれぞれの方法で勧奨・啓発する各団体が参加している。4ヵ月前から各団体の担当者による準備会議が開催されたが、会議では話が弾み、パレードでの企画に関して様々な提案が飛び交った。

パレード当日は生憎の雨模様の中、当事業団の参加者は、揃いの緑の法被を身に付け、両手に持ったしゃもじを打ち鳴らしながら、三百六十五歩のマーチに合わせて行進した。どんたく隊全体では、参加者全員が黄色の

## 福岡支部から

公益財団法人福岡県すこやか健康事業団  
学術研究センター企画室長 城戸真和

スカーフを身に付け、同じ目標を掲げて協力する仲間としての一体感を出した。どんたくの雰囲気を楽しみながらも、伝えたいメッセージを発信できたのではないかと思う。



がんになった人やその家族は改めて色々な人から勇気をもらっていることを実感するという体験談を何度も聞いた。今後も、がんを予防したい、がんを治したい、がんと共存したい、その想いで多くの人達と一緒に歩いていきたい。

<筆者略歴>

1996年に前九州産業衛生協会に入職、健診センター等にて勤務。2009年に前福岡県対がん協会と前九州産業衛生協会が合併し、法人が福岡県すこやか健康事業団となる。2011年より現職。



無事にゴールして笑顔

## 2013年度 がん検診の実施状況から ◇乳がん

	受診者数 (A)	要精検者数 (B)	精検受診者数 (C)	精検の結果					異常なしの人数 (E)	がん発見率 (D/A)	陽性反応 的中度 (D/B)
				がん(D)	がん疑い	がん以外の 疾患	異常なし	その他の結果			
北海道	68,886	2,953	2,878	287	0	1,991	600	0	65,933	0.42%	9.72%
青森	26,684	1,959	1,771	66	3	561	729	412	24,725	0.25%	3.37%
岩手	36,831	810	754	87	0	495	172	0	36,021	0.24%	10.74%
宮城	51,613	1,631	1,530	108	0	974	448	0	49,982	0.21%	6.62%
秋田	15,133	1,328	1,195	38	2	484	408	263	13,805	0.25%	2.86%
山形	37,089	2,292	2,070	50	14	913	1,093	0	34,797	0.13%	2.18%
福島	19,463	726	633	36	5	218	319	45	18,737	0.18%	4.96%
茨城	58,290	2,761	2,504	125	15	1,408	956	0	55,529	0.21%	4.53%
栃木	43,205	2,944	2,547	105	45	1,486	881	0	40,261	0.24%	3.57%
群馬	25,415	1,192	1,171	76	1	667	427	0	24,223	0.30%	6.38%
埼玉	42,214	2,808	2,356	111	43	960	1,094	148	39,406	0.26%	3.95%
千葉	168,702	7,117	6,471	243	29	4,083	2,106	10	161,585	0.14%	3.41%
新潟	56,333	3,877	3,597	139	31	9	1,653	1,761	52,456	0.25%	3.59%
山梨	9,392	358	291	15	1	142	111	22	9,034	0.16%	4.19%
長野	36,669	2,160	1,873	19	0	334	118	0	34,509	0.05%	0.88%
富山	38,559	2,804	2,653	97	0	1,067	1,489	0	35,755	0.25%	3.46%
石川	20,671	1,437	1,306	52	1	367	696	190	19,234	0.25%	3.62%
福井	20,462	1,656	1,470	73	0	555	215	627	18,806	0.36%	4.41%
愛知	8,842	783	690	21	0	279	390	0	8,059	0.24%	2.68%
三重	30,268	1,771	1,580	69	3	734	764	10	28,497	0.23%	3.90%
滋賀	7,506	777	747	20	10	372	345	0	6,729	0.27%	2.57%
京都	61,757	3,497	2,511	133	8	894	1,285	191	58,260	0.22%	3.80%
兵庫	17,437	967	788	31	8	465	284	0	16,470	0.18%	3.21%
奈良	1,629	70	46	2	1	18	24	1	1,559	0.12%	2.86%
和歌山	10,320	731	387	17	0	147	212	11	9,589	0.16%	2.33%
鳥取	10,632	676	590	29	0	163	328	70	9,956	0.27%	4.29%
島根	10,821	663	612	28	8	319	49	208	10,158	0.26%	4.22%
岡山	19,402	867	563	20	1	312	230	0	18,535	0.10%	2.31%
広島	14,076	982	908	39	6	339	494	30	13,094	0.28%	3.97%
山口	8,864	1,013	584	17	0	285	278	4	7,851	0.19%	1.68%
徳島	8,316	627	556	37	0	347	140	32	7,689	0.44%	5.90%
香川	11,052	766	741	45	0	320	376	0	10,286	0.41%	5.87%
愛媛	29,893	1,087	1,039	86	13	562	376	2	28,806	0.29%	7.91%
高知	20,884	1,027	906	45	3	399	459	0	19,857	0.22%	4.38%
福岡	59,461	4,318	3,827	174	15	2,128	1,491	19	55,143	0.29%	4.03%
佐賀	15,534	1,061	957	30	16	0	442	469	14,473	0.19%	2.83%
長崎	18,839	1,249	1,156	36	44	578	498	0	17,590	0.19%	2.88%
熊本	33,392	1,365	1,142	79	0	773	290	0	32,027	0.24%	5.79%
大分	15,878	1,168	1,095	52	4	389	650	0	14,710	0.33%	4.45%
宮崎	6,458	447	405	24	0	246	118	17	6,011	0.37%	5.37%
鹿児島	56,079	2,302	2,195	111	16	1,156	912	0	53,777	0.20%	4.82%
沖縄	13,200	1,136	952	30	0	451	372	99	12,064	0.23%	2.64%
合計	1,266,151	70,163	62,047	2,902	346	28,390	24,322	4,641	1,195,988	0.23%	4.14%